

第23回市長と話そう会

日時 令和元年 6 月 27 日 (木)
13:30～

場所 武雄市役所 4 階会議室

参加者 市内保育所、認定こども園より
保育士 7 名



市内保育所、認定こども園にお勤めのみなさん（経験年数1～3年）にお集まりいただき、仕事内容や保育士になろうと思ったきっかけなどお話を伺いました。

◎座談会（*以下要点のみを記載しています。）

市長：みなさんが保育園で働かれるなかで大変なところ、困っているところなどを教えてほしい。

参加者：

- ・資料作成、行事の準備（衣装づくり等）など家に持って帰る仕事が多い。
- ・職員数が少なく、休みが取りづらい。
- ・土曜日の保育について、少ない職員で対応しなければならず大変だ。
- ・発達の気になる子の関係機関へのつなぎ。

市長：小中学生の15人に1人の割合で発達が気になる子がいるといわれている。武雄市では発達障がい児支援室をつくった。みなさんが一人で背負わなくていいように関係機関につないで対応していきたい。

市長：みなさんが保育士になろうと思ったきっかけは？

参加者：

- ・小さい子の面倒を見るのが好きだから。
- ・子どもと触れ合える仕事がしたいと思った。
- ・恩師の影響。
- ・保育園が楽しく、自分も子どもたちをそのような気持ちにさせたいと思った。
- ・中学生のとき、保育園での職場体験で子どもがかわいいと思った。

市長：幼児教育の無償化により今後ますます労働環境が厳しくなるかもしれない。どうしたら保育士になる人が増えると思う？

参加者：

- ・給料、休日など待遇面の改善。
- ・小中学生と交流の機会を増やし、多くの子どもたちに保育士のことを分かってもらえるようにできたら。

- ・保育士の地位の向上。
- ・他市に奨学金返済支援制度があったと記憶しているが、このような制度が武雄市にもあれば。

市長：みなさんから要望、質問などあったら

参加者：

・キッズウィークのときに学校は休みで放課後児童クラブは空いている。武雄市内で働く保護者は休める方が多かったと思うが、職場が市外という方は休めなかったようだ。この取り組みが市外にも広がっていけばいいと思う。

市長：アンケートをみると賛否両論であった。県にも佐賀県全域で取り組めるように要望をしている。企業へ働き方についての考えを投げかけることができた。

・児童施設周辺の道路標識は「生まれ」など漢字で書くのではなく、ひらがなで書いてもらえば子どもにも分かり、意識も高まるのではないか。

市長：子どもだけでなく外国人にとってもひらがなが分かりやすいので、ひらがなを使うようにしたいと考えている。

市長：母親が身体を壊して保育士を辞めたので、保育士の仕事の大変さはわかっているつもりです。子どもだけでなく保護者もみなさんに救われています。みなさんを心から尊敬しています。忙しいなかに駆けつけてくださった今の時間を無駄にすることのないよう、我々も次につながっていきたいと思っています。